H30.7.30

避難行動を習慣にしよう！

～生活防災タイムライン説明会を開催～

－紀南河川国道事務所－

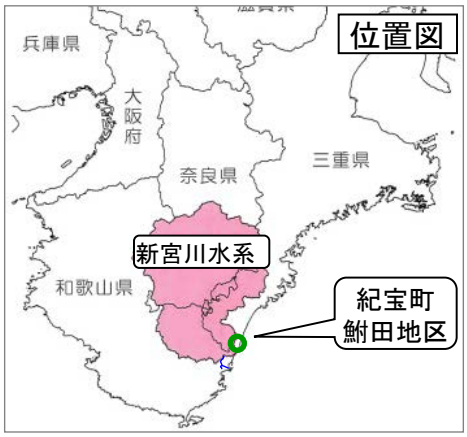
熊野川減災協議会では、取組方針の一つである「自主防災意識の向上」に向けて、紀宝町鮒田地区が進める「地区版タイムライン」の作成に協力してきました。（平成29年度に完成）

全国各地で豪雨災害が発生する中、避難情報を受けても実際の避難行動に繋がりにくいことが課題となっています。紀南河川国道事務所では、大阪工業大学等と共同※で新たに『生活防災タイムライン』として、住民が普段どのような生活を送られているのかを全戸聞き取りを行い、日常生活と避難行動とを結びつける取り組みを始めます。

8月以降、地区内の全戸聞き取り調査を行い、平成31年度の完成を目指します。

※平成30年度河川砂防技術研究開発公募 流域計画・流域管理課題分野の研究テーマとして採択済み

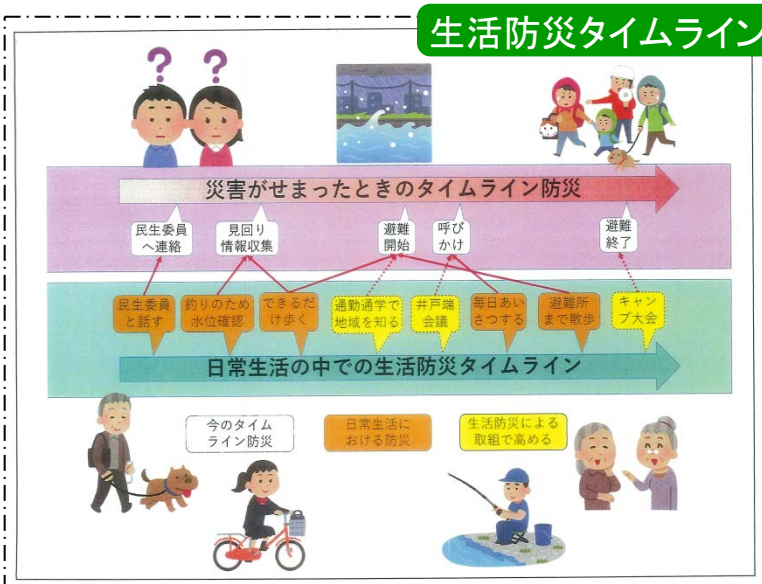
■日　時：平成30年7月30日（月）19：00～20：00
■場　所：鮒田構造改善センター
■主　催：研究者（大阪工業大学、京都大学防災研、(株)建設技術研究所）
　　紀南河川国道事務所、紀宝町
■参加者：紀宝町鮒田地区住民等（15名）
　　〈自主防災会、自治会、消防団、民生委員、児童福祉施設〉
　　紀宝町、紀南河川国道事務所



説明会の状況（自治会長挨拶）

鮒田地区版
タイムライン
（昨年度作成）

生活防災タイムラインとは‥



■ 地域防災の課題

- 自宅が危ないかどうかが分からない。
- 避難すべきかどうかが分からない。
- どこに避難するのか分からない。
- いつ避難するのか分からない。

タイムラインにより解決する課題

- 避難自体が大変なので、とどまる。
- 避難先での環境が不安。
- 避難しない方を残しておけない。

日常生活に溶け込むような避難行動

- 普段から避難所を井戸端会議の場などで使用
- いつでも誰でも立ち寄れる施設とする・・・など

説明会での意見

- 昨年度の台風の際に避難の呼びかけに回ったが、お年寄り、身体の不自由な方で頑として避難に応じない方がいる。残しては避難出来ずに本当に苦労した。
- 避難先にどのような施設が備わっているかが不安。
- 地区内に十分な高さのある避難所が不足している。

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局　紀南河川国道事務所　調査課
〒646-0003　和歌山県田辺市中万呂142　TEL 0739-22-4564（代表）

水防災意識社会再構築ビジョン